藍住町歴史館

藍の館

ようこそ阿波藍の世界へ

令和4年11月13日(日)
リニューアルオープン

藍住町歴史館「藍の館」は、大藍商であった奥村家の旧屋敷13棟の建造物と13万点にもおよぶ奥村家文書が、昭和62年に11代当主奥村武夫氏から藍住町に寄附されたのを機に、資料館を新設し平成元年8月に開館しました。国指定重要有形民俗文化財の「阿波藍栽培加工用具一式」をはじめ、徳島県指定有形文化財（建造物）「奥村家住宅」、藍住町指定有形文化財「奥村家文書」の保存・活用を行い、阿波藍の知識や藍の生活文化の創造、日本遺産「藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～」のストーリーを広く普及する藍の情報センターとしての役割を担っています。

藍の歴史や流通について、また藍の栽培から葉への加工、藍染めを行うまでの工程を、紙人形や実際に使われた道具とともに分かりやすく展示しています。また、天然の藍染料による藍染めの体験もできます。

奥村家住宅

徳島県指定有形文化財

奥村家は、「舛」又は「藍屋」の屋号をもって文化年間（1804～1818）から藍商として発展します。大坂市場に藍玉を売り込んだほか、幕末には筑前売の株を取得、さらに明治6年（1873）には東京の深川に支店を設けるなど、販路を拡大していきました。

「藍屋敷」と呼ばれる藍師・藍商の豪壮な屋敷の代表例である奥村家住宅は、奥村家が藍商として経営を軌道に乗せた文化年間から明治20年（1887）頃にかけて建てられました。主屋は広い敷地の北寄りに南面して建ち、これを囲むように南と東西に藍染料の加工場である寝床や贅を尽くした西座敷、県下でも例の少ない奉公人部屋など13棟が立っています。主屋は、間口19.8m、奥行9.9mの入母屋本瓦葺2階建てで、棟札から文化5年（1808）に建てられ、文政10年（1827）に2階を継ぎ足す増築がされたことが分かっています。3棟ある藍寝床は藍屋敷特有の建物で、藍の寝せ込みの作業のためにさまざまな工夫が凝らされています。

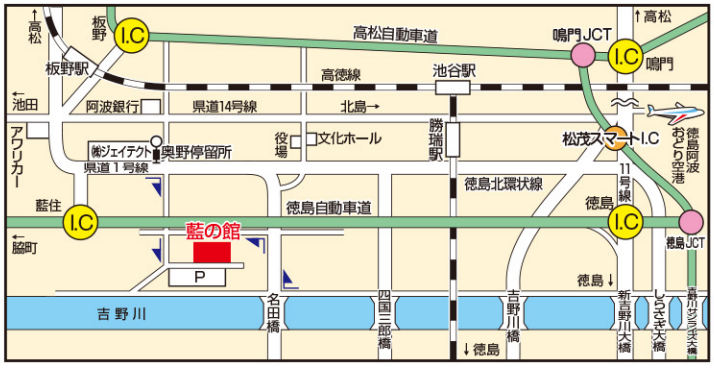
建物群がほぼ完全に保存された藍屋敷は数少なく、奥村家住宅は藍作りの文化を伝えるためにも貴重な資料です。

昭和62年に徳島県の有形文化財「建造物」に指定されています。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

藍の館への交通

JR徳島駅前から徳島バス（鍛冶屋原線）奥野停留所下車後徒歩約10分
JR勝瑞駅前から車で約10分　徳島駅前から車で約25分
徳島空港から車で約30分　藍住ICから車で約5分　板野ICから車で約10分



営業時間　9時～17時

定休日　火曜日（祝日は開館）
12月29日～1月3日まで

入館料　大人300円　中高生200円　小学生150円
※20名以上の団体の場合は50円引きになります。
※身障者手帳を提示いただいた方は100円引きになります。

藍染体験料　ハンカチ　1,000円ほか
藍染体験は予約が必要です。（藍染体験の受付は15時まで）

お問い合わせ　藍住町歴史館「藍の館」　088-692-6317
〒771-1212　徳島県板野郡藍住町徳命字前須西172番地